

var. *americanus* SCHULTES (北米・勸察加) var. *denticulatus* FASSETT n. v. (北米・勸察加・アムール・アリウシヤン) var. *papillatus* OHWI (日本) var. *grandiflorus* FASSETT n. v. (北米西部) var. *oreopolus* FASSETT (北米東部) 4) *S. obtusata* FASSETT n. sp. (支那四川省) 5) *S. roseus* MICHX var. *typicus* (北米東部) var. *perspectus* FASSETT n. v. (北米東部) var. *longipes* FASSETT (北米中部) var. *curvipes* FASSETT (北米西部) 6) *S. streptopoides* FRYE et RIGG var. *verus* (西比利亚東部) var. *brevipes* FASSETT (北米) var. *japonicus* FASSETT (日本) var. *atrocarpus* MATSUM. (日本) 7) *S. koreanus* OHWI (朝鮮) (大井次三郎)

孔憲武氏：支那産スズメノエンドウ屬 — H. W. KUNG : Notes on Chinese *Vicia* in Contr. Inst. Bot., National Academy of Peiping 3 (1935) 383—395.

著者の調べた支那産の *Vicia* の報告で十七種を記して居り、その内 *Vicia tetrantha*, *Vicia sinkiangensis* は新種である。十七種に對する檢索表と新種二つの圖版がある

金平亮三氏：増補改版臺灣樹木誌 (1936).

本書初版即ち大正七年に發行されたものに比して内容、挿圖共に著しく改良されて全く雲泥の相違がある。氏によれば臺灣に於ける最初の植物採集は R. FORTUNE (1854) であると云ふ。その後 C. WILFORD, R. SWINHOF, R. OLDHAM, W. GREGORY, J. B. STERRE, W. HANCOCK, C. FORD, G. PLAYFAIR, A. HENRY 等の採集があつた。日本領有に成つてから牧野、大渡、森、川上、小西、U. FAURIE の諸氏の調査があり、その後臺北に帝國大學が設立された。氏は臺灣を次の五帯に分けて居る。I 紅樹林帯 2 海岸林 3 農耕地帯 4 潤葉樹帯 5 針葉樹帯、各論はフモトヘゴに初まり、ヒメクサトベラに終る 879 種の文獻、解説、島内及び島外の分布を説明し、殆んど各頁毎に挿入された挿圖と共に臺灣樹木の調査には絶好の參考書である。此の書で改められた學名も相當ある。又改められるべき學名も少しあるが此れは意見の相異で當然かも知れない。此の中で發表された新種の記載が中途半端であるのと、知られて居た學名が相當脱落して居るのは残念である。(大井次三郎)

佐竹義輔氏：日本産マヲ屬植物 — Y. SATAKE, *Boehmeria Japonica*, in Joun. Fac. Sci., Imper. Univers. Tokyo, Sect. 3, Vol. 4, pp. 467—542, with 54 textfig., July 25, 1936.

著者の研究は東京帝國大學理學部植物學教室所藏の標本を基として行はれたもの

で、これによつて新たに本邦に十九種二變種四品種が加えられた。まづ本屬を互生葉と對生葉とに従つて *Tilocnide* 及び *Duretia* の二亞屬に分ち前者には三種を、後者に三十六種を認め、之れを瘦果の形狀並に毛茸の状態によつて七つの節に分類排列してある。ラテン語の檢索表と各種の異名並に産地が列擧されて居て檢定に非常に便利である。その上殆んど各種毎に掲げられた瘦果の挿圖は又その檢定をはつきりさせるのに役立つ。新種は *B. egregia* (p. 467), *B. Nakaiana* (p. 491), *B. kiyozumensis* (p. 497), *B. arenicola* (p. 499), *B. tenuifolia* (p. 501), *B. minor* (p. 506), *B. tiliifolia* (p. 507), *B. kiuisiana* (p. 508), *B. pannosa* NAKAI et SATAKE (p. 510), *B. gigantea* (p. 513), *B. guelpaertensis* (p. 514), *B. villigera* (p. 516), *B. praestabilis* (p. 519), *B. Maximowiczii* NAK. et SATAKE (p. 522), *B. pachystachya* (p. 524), *B. taiwaniana* NAK. et SATAKE (p. 526), *B. robusta* NAK. et SATAKE (p. 528), *B. dura* (p. 529), *B. izuosimensis* (p. 532). (大井次三郎).

陳封懷氏：中國泥胡菜屬之研究 (Feng-Hwai CHEN : The Study of Chinese *Saussurea* in Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology Vol VI. (1935) p. 75-102, Peiping).

この *Saussurea* 屬の論文は小生の *Les Saussurées du Japon* と殆んど同時で少しく遅れて出版された論文であるが分類の体系は Pflanzenfamilien の HOFFMANN 氏の 1894 年のまゝであるので新名が重なつたりはしてゐない。これは三部よりなつて 1. 中國泥胡菜屬之地理分布には總論がある。本屬は縁邊の各地より中國に移入せるものありとあるが、最初縁邊の地で書かれても何も其の地を其の植物が起原したところとするのは誤りで、實は支那に起原してゐるものが印度とか滿洲とかシベリヤに分布して其の土地で發見されて書かれたと見るべきであると筆者は思ふ。次ぎに山脈に従つて種の分布するといふのはこれは古くより知られてゐる植物の分布の法則の一つである。本屬が山地の植物であつて支那では 5000 m-9000 m. の高さに最も多いさうである。乾燥地帯の植物で poor and dry soil に耐えるといふ。生態學的研究に依つて種の境界を決定すべきであると云つてゐる。2. は LÉVELLÉ 氏の所命名之泥胡菜訂正であるレベイエ氏の新種 20種に就いて批評してゐる。これはエヂンバラ植物園よりレベイエ氏の腊葉を借つて研究したのもので 20種の中 *S. chinampoensis*, *S. leontopodium*, *S. Merinoi* の3種を生かしてゐる。3. は新種であつて *Saussurea incisa*, (河北) *S. globosa*, (四川) *S. chrysanthemumoides*, (雲南) *S. rotundifolia*, (四川) *S. subcordata*, (四川) *S. oblongifolia*, (雲南) *S. pseudoleontodon*, (西藏) *S. tienmoshanensis* (浙江) 等を記載してゐる。(北村四郎).